

学則の変更の趣旨等を記載した書類

a 学則変更（収容定員変更）の内容

広島修道大学人文学部人間関係学科教育学専攻の入学定員が 55 名のところを 50 名に、収容定員が 220 名のところを 200 名に減少させる。また、同人間関係学科社会学専攻の入学定員が 55 名のところを 60 名に、収容定員が 220 名のところを 240 名に増加させる。(資料 1)

b 学則変更（収容定員変更）の必要性

現在、人文学部人間関係学科教育学専攻は、2011 年度に小学校教諭一種免許状の課程認定を受けるべく、課程認定の申請準備をしている。課程認定申請にあたり、教職課程認定基準（小学校教諭免許課程）に鑑みて、入学定員を現行の 55 名から 5 名減少させ 50 名とすることとし、学則を変更することとした。減少させた 5 名については同じ人間関係学科にあって比較的学生の募集力があり、より多様な学生の受け入れを要望する社会学専攻の入学定員に加えることとした。(資料 2、資料 3)

c 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

・ 教育課程の内容の担保

広島修道大学では 2011 年度に全学的なカリキュラム改定を行う予定であり、以下に示す内容も、その学則に関する部分については、既に 2010 年 2 月教授会で承認された事項である。

教育学専攻では、小学校教諭一種免許状の課程認定申請に伴い、新たな教育課程を策定した。その際、教育実践力だけではなく、現代の教育上の諸問題に対応すべく、優れた教育観を育成するための教育学関連の専門科目の充実も図った。また、必修科目である演習や卒業研究は教育学専攻の専任教員全員が担当することから、伝統である少人数教育はさらに徹底されることとなる。

社会学専攻では、専門演習科目を 2 科目（現代社会論演習 A・現代社会論演習 B）増やすとともに、これまで 3 年次からの履修となっていた特殊演習科目 3 科目（社会安全政策論特殊演習・ジャーナリズム論特殊演習・メディア論特殊演習）を 2 年次から履修できるようにするなど、定員増加を想定して改定をおこなった。また、現有教員数からみても演習科目や卒業研究の少人数教育への対応は十分に可能であり、定員の増加によって多様な学生が集まることは、むしろ、教育効果を高めるものと判断している。

・ 教育方法・履修指導方法の内容の担保

教育方法については従来からの少人数教育を基盤とした方法を堅持し、さらにその充

実を図る。

履修指導方法についても、特に変更することはない。チューターや演習担当教員による学生指導は、従来から大学全体の取り組みとして実施されてきており、「修大基礎講座」「初年次セミナー」等の授業を開設することで、初年次教育の充実も図っている。

・ **教員組織の内容の担保**

教育学専攻では、2011年度に小学校教諭一種免許状の課程認定を受けるため、2012年度をもって2名の専任教員が退職予定であることを前提に、2011年度に算数の教科に関する科目担当の、2012年度に理科の教科に関する科目担当の専任教員を採用することを決定し、既に人選も終えている。また、人文学部所属の教職に関する科目担当教員として、心理学・教育学系教員1名の純増を計画し、人選を終えている。その他の教育学専門分野については、現状の教育環境を維持し、大きく変更することはない。

社会学専攻では、現行の所属教員を適切に配置することで改定後のカリキュラムに対応し、組織そのものについては大きく変更することはしない。